

基本目標

2 ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化

重点施策

1 ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める 担当課(館)

① ふるさとキャリア教育を積み重ねて生みだされた「強み」の進化・深化

学校教育課
教育研究所

活動内容 ふるさとキャリア教育14年目を迎え、これまでの各校の百花繚乱作戦や子どもハローワーク、子どもサミットなどの取組から生みだされた「強み」を一層充実させるため、子どもの心が動くような教育をしかける。そして、子どもたち自身が「ひと・こと・もの」へ主体的に関わることで、ふるさとへの愛着を深め、「未来大館市民」として成長するための教育的効果を高めていく。

- 目標を上回る (達成率100%超)
- 目標どおり (95~100%)
- 目標をやや下回る (80~94%)
- 目標を大幅に下回る (80%未満)

【全国学力学習状況調査 児童生徒質問調査結果】

※単位:%

小6	社会貢献力・社会変革力		中3	社会貢献力・社会変革力	
	11	27		11	27
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか		人の役に立つ人間になりたいと思いますか	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
市(1)	84.5	52.5	市(1)	81.4	41.7
市(2)	14	39.8	市(2)	18.1	49.1
市合計	98.5	92.3	市合計	99.5	90.8
県(1)	82.6	47.8	県(1)	80.1	36.1
県(2)	15.3	42.3	県(2)	18.2	50.4
県合計	97.9	90.1	県合計	98.3	86.5
国(1)	73.7	33.8	国(1)	71.3	22.4
国(2)	22.7	47.5	国(2)	25.3	52.9
国合計	96.4	81.3	国合計	96.6	75.3

【秋田県学習状況調査 児童生徒質問調査結果】

※ 県を100と見たときの指数

質問番号	質問事項	小4	小5	中1	中2	平均
2 5	人の役に立つ人間になりたいと思う	101.1	100.5	101.7	101.7	101.2
2 6	地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う	102.3	99.7	109.7	106.8	104.6

どちらの結果を見ても、地域社会のために行動をおこしたいと考える児童生徒の割合が非常に高い。

- (1) 子どもハローワーク参加人数はのべ約1000名となり、旧市街だけでなく、比内町からの参加が増えた。また、大型イベントの開催があり、高校生の参加も順調に伸びている。
- (2) 子どもサミットにおいて、各校での地域貢献活動について市長を交えて意見交流ができた。
- (3) 各学校の百花繚乱作戦が、新聞に多数掲載された。

課題等

- (1) 子どもハローワークについては、小中学生だけではなく高校生の参加数が増えてきているので、高校生の体験場所を今後も考えていきたい。また、おおとり教室に入級している不登校の児童生徒が参加できるよう地域の協力を得たい。
- (2) 子どもサミットにおいて、継続してきた活動だけでなく地域貢献活動をさらに各校に呼びかける。
- (3) 今後も各学校における百花繚乱作戦において、地域の人たちと積極的に関わる活動を継続し、児童生徒の社会的使命感が高まっていくことを期待している。

取組の方向性

- 継続
- 廃止検討
- 単年度

学識経験者等意見

・ふるさとキャリア教育が始まって14年目ということで、定着しつつあると感じているし、今までの取り組みの積み重ねが好循環になってきている。
 ・各学校の取組が、地域にもともとあった取組をバージョンアップさせたものになっている。こうした活動を通して、人の役に立ちたいという子どもの変容が見えてきている。
 ・子どもの個性や特長といった凹凸の部分を引き揚げながら、個の成長が見える指導の厚みを出してほしい。
 ・おおとり教室と地域との協力による活動は面白い取組である。今後も新しいものにチャレンジしてほしい。

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める
	担当課(館)
	② いじめ・不登校問題の予防及びその克服のための支援体制の充実
	学校教育課 教育研究所
活動内容	いじめ・不登校調査の分析と活用、関係機関との連携により、未然防止と早期対応を一層充実させる。特に不登校対策については、毎月実施している「欠席状況調査」において、日数の累計だけではなく、児童生徒の現状を精査した上で一人一人の実態を的確に把握し、学校と連携する。また、年度の切り替わりや小学校から進学先の中学校への情報の引き継ぎを確実にを行うことで、切れ目のない支援体制を構築し、学校への情報提供や助言をきめ細かに行う。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	不登校及び不登校傾向の児童生徒数は、昨年度に比べ減少傾向にある。特に、小学校での増加が抑えられている。成果点としては、関係機関との情報共有による諸問題への対応及び支援体制の充実が挙げられる。毎月の欠席状況調査の分析の他、夏季休業中の市内全小中学校との情報交換会や年3回の子育て相談会の実施などによって、いじめ・不登校等の諸問題を抱える児童生徒の情報を共有し、その対応について協議している。このことが、各校での一人一人に応じた具体的な支援や対応、あるいは家庭との連携によるカウンセリングや各種発達検査などにつなげることができている。 また、不登校及び不登校傾向の児童生徒及び保護者が悩みを抱え孤立することなく、必要とする情報や支援を得られるように、市内の相談機関等で扱っている活動内容について「子ども、保護者、家庭サポート窓口」として取りまとめ、全家庭に周知している。このことがきっかけとなり子育て相談会につながるケースも増えている。さらに、子育て相談会も1度きりの相談で終わるのではなく、継続的な支援体制につなげることができた。
課題等	不登校の原因は様々で多岐にわたるが、家庭状況を背景とするケースも多い。児童相談所や福祉部子ども課が関わるケースも増えている。今後も、各関係機関と不登校の未然防止の取組や支援の在り方について連携していくとともに、一人一人の児童生徒に応じた各校における支援体制づくりと組織的対応が迅速に進むよう働き掛けをしていく。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	・相談機関として、常任の臨床心理士の功績は大きい。さらに、福祉課、子ども課、病院等といった関係機関との連携が他市よりも進んでいると感じている。 ・ふるさとキャリア教育による人と人とのつながりが功を奏している。 ・不登校の早期発見に留まらず、より初期段階の「なりかけ」を見つけてほしい。

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
2	大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する
	担当課(館)
	① 教育ツーリズムによる「本質を追い求める教員が集う街」の実現
	学校教育課 教育研究所
活動内容	ふるさとキャリア教育が、掲げる理念の先見性、生み出す活動のクオリティ、織り成す組織のアクティビティなど、公教育における先駆的、先覚的、先導的教育実践を追求し、教育ツーリズムを通して、参集を希望する志ある全国の教員が、あるべき教育の姿を語り合う場を設定する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) <p>令和7年度の教育ツーリズムによる訪問要請の教育交流(受入)実績は、実人数がおよそ762人、講演や出前授業等の参加者は約600人となっており、両方の取組を合わせた交流都道府県数は20を超えている。</p> <p>今年度の特徴として、本市が全国に先駆けて取り組んでいる「架け橋プログラム」への関心の高さから、講演等の要請とその参加者が増加したことが挙げられる。幼保小連携の重要性がうたわれている現在において、この傾向は今後も継続すると考えられる。</p> <p>教育交流では、視察プログラムの中に「教育実践についての懇談の場」を設定し、学力向上等の施策に係る協議を、視察団体が進行役となって行うように企画した。その結果、受入校においては、管理職のほか、研究主任や特色ある授業実践を展開している教員等が同席する場面が見られるようになり、自校の中核的教員等の人材育成に活かそうとする管理職の意識の高まりにつながった。このことは、抽出調査ではあるものの、今回初めて実施した本市教職員の意識調査にも表れている。</p>
課題等	<p>令和7年度は、視察依頼等の各校への均等な振り分けと「教育実践についての懇談の場」の設定に一定の成果が見られた。これは、視察等を学校経営と人材育成に活かしたいという視点で各校長が戦略をもって受け入れてくれたことが大きい。事務局の情報を積極的に各校で共有しながら、受け入れにかかる要望や課題等についても早い段階で協議することができた。</p> <p>大館市教育委員会事務局としては、外部教育関係者との交流を通して、「大館市公立学校教員の資質向上に役立てる」という本質的なねらいを常に持って調整を図っている。そのためには、視察等を受け入れる「発信」だけでなく、他県の情報も吸収していく「受信」という体制も一層整備していきたい。だからこそ、他県からの参加にも「お客さん」として参加するのではなく、視察等における明確なねらいと自己の課題や実践等の紹介等も課すことで、教育交流と人材育成の関係性をより実感できる方策を考えていきたい。</p>
学識経験者等意見	<p>取組の方向性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 <p>・文科省の教育構想等を的確につかみ、臆することなく進んでいる、そのチャレンジする姿勢を評価したい。 ・昨年、全都道府県からの視察を達成し、他県に行かなくとも他県の状況を伺い、研修ができていようなので、一層整備し子どもたちを育ててほしい。</p>

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
2	大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する
	担当課(館)
	② ふるさとの価値を多面的かつ広域的に捉える機会の充実
	学校教育課 教育研究所
活動内容	ふるさとキャリア教育による学びを根幹に、子どもサミットや海外研修等の活動を通して成長した児童生徒が全国や世界の視点からふるさと大館を見つめることで、豊かな未来についての想像力や思考力、社会に働きかける実践力などを伸長するとともに、その姿を積極的に地域に発信する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	<p>子どもサミットについては、年2回の代表会議を庁舎議場で開催されるようになってから、多くの市議会議員の皆様や学校関係者、保護者にも参観いただき、小・中学生の視点で「大館市をよりよくする方法」を考え、提案、情報発信をする場となっている。昨年度は、特に、子どもたち自身が「メディア依存に関わる諸問題」を自分事として捉え、各校で特色あるメディアコントロールの活動を進めた。自校の活動にとどまらず、中学校区で連携をし、縦のつながりのある活動を展開した学校もある。今後も、未来大館市民のリーダーとしての気概を高め、「地域のために、学校のために私たちにできることは？」について考え、取り組んでいく予定である。</p> <p>海外研修については、研修の充実を図るため、全5回に渡る事前学習会を実施し、日常英会話の他、昨年度の研修生による講話を聴いたり、研修先での生活経験者から現地の生活や研修の際のアドバイスを受たりなどの学習を行った。研修先のニュージーランドでは、文化施設や学校訪問、ファームステイ等の体験活動を行い、異国の歴史や文化に触れ、日本との違いや互いのよさに気づいたり、ふるさと大館や自己を見つめ直したりすることができた。</p> <p>また、帰国後、研修の成果を市長への報告会で発表をした。</p>
課題等	<p>年2回の代表会議後には、参加した代表委員が自校で報告や伝達を行っているが、その方法等については学校間に差があるように感じる。各校の担当者にしっかりと働きかけ、子どもサミットの共通実践事項が徹底されるようにしたい。</p> <p>物価高騰の折、海外研修においては、保護者負担が年々大きくなっているのが現状である。生徒の成長にとって大きな効果を与える本研修であるため、今後も広く門戸を開き、多くの生徒にとっての貴重な学びの場として継続していきたい。</p>
	<p>取組の方向性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	<p>・子どもサミットは、各校で子ども達が案を出し合いサミットで報告する流れとなっており、自分たちで作りに上げていくスタイルとなっていることがとても良いと感じている。</p> <p>・海外研修は、物価高騰の折、予算的に大変だと思うが、対象者が減少しても灯を消さないよう今後も続けてほしい。</p> <p>・サミットや研修で育った子どもたちが20代になり、いろんな形で大館におかえししている、そういった例が実際にあるので、ぜひ、継続してほしい。</p>

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
3	学校と地域が織りなす教育活動の充実を図る
	担当課(館)
	① 就学前教育及び中等・高等教育とのつながりを重視した「教育の縦の基軸」の強化
	学校教育課 教育研究所
活動内容	小学校に接続する全てのこども園等による幼保小架け橋プログラムにより策定した就学前教育カリキュラムの実践と、地域の県立高等学校、特別支援学校、大学等のリーダーの方々と教育理念や教育実践について議論を交わす「教育懇談会」の開催を通して、大館盆地における教育ベクトルの一体化を図り、未来大館市民に直径する縦の基軸を強化する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	・文部科学省委嘱事業「幼保小の架け橋プログラム」のモデル自治体を経て、市内全ての小学校区が策定した架け橋期のカリキュラムを実践・展開することができた。様々な連携や交流活動を通して、園と小学校が企画や事後の協議を重ね信頼関係が構築され、共に架け橋期の子どもたちを育てる機運が醸成されている。 ・7月に開催された「教育懇談会」においては、新たな「おおだてふるさとキャリア教育」のグランドデザインに基づく小・中学校、高等学校、特別支援学校、高等教育機関等のキャリア形成に係る一環した育ちの循環について共有を図った。さらに、各校の児童生徒、学生の実態を踏まえた「未来大館市民」育成の成果や課題、そして今後の展望等についての協議を通して、高等学校長のふるさとキャリア教育の理解の深まりを感じた。
課題等	・完成した幼保小の架け橋期のカリキュラムに基づいて、全小学校・園が連携や交流、日常の授業・保育の改善に取り組むことになる。引き続き、幼保小の架け橋プログラム促進事業を活用して架け橋コーディネーターを配置し、新たなモデル地区(有浦小・扇田小)を指定しながらカリキュラムを検証し、幼保小連携を一層推進する。 ・大館への愛着や地域に貢献しようとする意欲を、定住、地元就職、地域社会への参画意識へつなげるための方策について、引き続き高等教育機関との協議を進め、「大館盆地に軸足をおいて、自分の人生の道筋を考える」という体験の創出を推進する。
	取組の方向性
	<input checked="" type="checkbox"/> 継続
	<input type="checkbox"/> 廃止検討
	<input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	・今は種をまき、芽が出てきている段階で、水やりとしての施策が大事と思うので、できあがったプログラムを実のあるものにしてほしい。 ・中学と高校とのつながりという縦軸ができてきた。これは、研究会活動等を行い教育イズムの共有化を図ってきた成果と思うので、今後に期待したい。

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
3	学校と地域が織りなす教育活動の充実を図る
	担当課(館)
	② 地域住民や民間企業等との連携等「教育の横の基軸」の生かしたスクール・コミュニティの形成
	学校教育課 教育研究所
活動内容	学校が核となり、地域住民や民間企業と連携した多様な教育活動を創出することで、主体的・対話的なスクール・コミュニティを一層活性化するとともに、そこから生まれる様々な発想の実現を通して社会的有用感を育て、社会変革力や実践力の育成を図る。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	<p>令和7年度、早口小学校が創立150周年を迎え、学校では記念事業として羽州街道の旅(弘前城見学など)、早口川の徒渡り、記念学習発表会など地域とのつながりを深める様々な記念事業が行われました。</p> <p>記念事業の実施に当たり、学校運営協議会委員は、学習発表会のパネラーの役を担うなど、積極的に事業に参画し、学校と地域をつなぐ重要な役割を果たした。</p> <p>各校で開催された学校運営委員会における学校の取組に関する評価は、全ての学校で概ね良好との結果となっている。</p> <p>学校運営協議会の設置状況及び委員数 小中単独19協議会、小中合同協議会3協議会(6校) 各校の保護者や地域住民など、延べ249人</p>
課題等	<p>令和7年度に委嘱した学校運営協議会委員の任期は2年間であるため、令和9年度からの新たな委員を選任するに当たり、各校長に候補者の推薦を依頼する必要がある。</p> <p>令和8年度中に各校との連携を密にし手続きを進める。</p>
	<p>取組の方向性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	<p>・大館は全学校に協議会があるということで、学校への応援団として、学校運営協議会委員249人のバックアップはありがたい。そして、子どもたちが育つ環境がある。</p> <p>・各学校によって、特色ある取り組みは様々だが、共通していることは地域と学校との一体感であると感じる。これが大館の強みであると思う。</p>

基本目標																																																																																																																																	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化																																																																																																																																
重点施策																																																																																																																																	
4	児童・生徒が教育パートナーとして支え合い、「おおだて型授業(響学)」の質を更に高める																																																																																																																																
	担当課(館)																																																																																																																																
	① 「おおだて型授業(響学)」を通して、「協働的な学び」と「個別最適な学び」を一体的に充実																																																																																																																																
	学校教育課 教育研究所																																																																																																																																
活動内容	<p>おおだて型授業(響学)を通して子どもたち一人一人の資質・能力を更に伸ばしていくために、「協働的な学び」と「個別最適な学び」を一体的に充実させ、「子どもの質の高い学び」を図る。これまで大館が培い成果を上げてきた「共感的・協働的な学び合い」を継承しながら、子どもたち自身が学びの方向性を見だしていく。そのために多様な他者を教育パートナーとして、支え合いながら進行・展開していく学びを目指し、教師が「学びを支える適切な指導・支援」ができるよう学校訪問等を通して各校に指導・助言を行う。また、おおだて型学力推進委員会においては、第1次学力向上に関する提言についての各校の効果的な実践をまとめた「SHI・N・KA」の発行や、全国学力・学習状況調査や県学習状況調査の児童生徒質問の「おおだて型学力」に係る項目について、データの分析を継続的に行っていく。</p>																																																																																																																																
点検評価	<p> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p>【全国学力学習状況調査 児童生徒質問調査結果】</p> <p>(1) 当てはまる (2) どちらかといえば当てはまらない ※単位:%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">設問35</th> <th colspan="2">設問31</th> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">設問35</th> <th colspan="2">設問31</th> </tr> <tr> <th>学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか</th> <th>5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか</th> <th>学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか</th> <th>5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>中3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>市(1)</td> <td>○</td> <td>45</td> <td>▲</td> <td>24</td> <td>市(1)</td> <td>◎</td> <td>46.6</td> <td>▲</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>市(2)</td> <td></td> <td>43.4</td> <td></td> <td>45</td> <td>市(2)</td> <td></td> <td>44.5</td> <td></td> <td>42.7</td> </tr> <tr> <td>市合計</td> <td>○</td> <td>88.4</td> <td>○</td> <td>69</td> <td>市合計</td> <td>◎</td> <td>91.1</td> <td>▲</td> <td>55.7</td> </tr> <tr> <td>県(1)</td> <td></td> <td>49.6</td> <td></td> <td>26.9</td> <td>県(1)</td> <td></td> <td>45.1</td> <td></td> <td>20.3</td> </tr> <tr> <td>県(2)</td> <td></td> <td>39.9</td> <td></td> <td>43.5</td> <td>県(2)</td> <td></td> <td>44.6</td> <td></td> <td>43.1</td> </tr> <tr> <td>県合計</td> <td></td> <td>89.5</td> <td></td> <td>70.4</td> <td>県合計</td> <td></td> <td>89.7</td> <td></td> <td>63.4</td> </tr> <tr> <td>国(1)</td> <td></td> <td>40.9</td> <td></td> <td>26.8</td> <td>国(1)</td> <td></td> <td>35.1</td> <td></td> <td>18.9</td> </tr> <tr> <td>国(2)</td> <td></td> <td>44</td> <td></td> <td>41.8</td> <td>国(2)</td> <td></td> <td>49.6</td> <td></td> <td>44.1</td> </tr> <tr> <td>国合計</td> <td></td> <td>84.9</td> <td></td> <td>68.6</td> <td>国合計</td> <td></td> <td>84.7</td> <td></td> <td>63</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎ 国・県の平均より高い ○ 国より高く県より低い ▲ どちらよりも低い</p> <p>【秋田県学習状況調査 児童生徒質問調査結果】 ※ 県を100と見たときの指数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>質問番号</th> <th>質問事項</th> <th>小4</th> <th>小5</th> <th>中1</th> <th>中2</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 3</td> <td>普通の授業では、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考え方を深めたり、広げたりすることができていると思う</td> <td>103.1</td> <td>95.1</td> <td>102.1</td> <td>103.7</td> <td>101.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができる」については、どちらの調査も肯定的回答の割合が小学校・中学校とも約90%前後を維持し、県学習状況調査においては、県平均を越えている。</p> <p>これは、共感的・協働的な学び合いを通して、自分と違う他者の思考に寄り添い、共にゴールを目指す学び合いが、小学校から中学校へと継続して行われているからと考えられる。</p>		設問35		設問31			設問35		設問31		学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	小6					中3					市(1)	○	45	▲	24	市(1)	◎	46.6	▲	13	市(2)		43.4		45	市(2)		44.5		42.7	市合計	○	88.4	○	69	市合計	◎	91.1	▲	55.7	県(1)		49.6		26.9	県(1)		45.1		20.3	県(2)		39.9		43.5	県(2)		44.6		43.1	県合計		89.5		70.4	県合計		89.7		63.4	国(1)		40.9		26.8	国(1)		35.1		18.9	国(2)		44		41.8	国(2)		49.6		44.1	国合計		84.9		68.6	国合計		84.7		63	質問番号	質問事項	小4	小5	中1	中2	平均	4 3	普通の授業では、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考え方を深めたり、広げたりすることができていると思う	103.1	95.1	102.1	103.7	101.0
	設問35		設問31			設問35		設問31																																																																																																																									
	学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか																																																																																																																													
小6					中3																																																																																																																												
市(1)	○	45	▲	24	市(1)	◎	46.6	▲	13																																																																																																																								
市(2)		43.4		45	市(2)		44.5		42.7																																																																																																																								
市合計	○	88.4	○	69	市合計	◎	91.1	▲	55.7																																																																																																																								
県(1)		49.6		26.9	県(1)		45.1		20.3																																																																																																																								
県(2)		39.9		43.5	県(2)		44.6		43.1																																																																																																																								
県合計		89.5		70.4	県合計		89.7		63.4																																																																																																																								
国(1)		40.9		26.8	国(1)		35.1		18.9																																																																																																																								
国(2)		44		41.8	国(2)		49.6		44.1																																																																																																																								
国合計		84.9		68.6	国合計		84.7		63																																																																																																																								
質問番号	質問事項	小4	小5	中1	中2	平均																																																																																																																											
4 3	普通の授業では、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考え方を深めたり、広げたりすることができていると思う	103.1	95.1	102.1	103.7	101.0																																																																																																																											
課題等	<p>「児童生徒が自分の考えが相手に伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか。」という設問に、小中ともに課題が見られる。教師が児童生徒に目を向け、集団の学び合いの中で一人一人が相手に伝える力を高めるにはどのような指導・支援が必要かより工夫していくことが求められる。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>																																																																																																																															
学識経験者等意見	<p>・設問31の回答結果を見ると大館の人はすごく謙虚だと思う。</p> <p>・調査結果から、学校は数値に現れない部分を掘り下げていくべきだし、市は傾向を把握して学校が経営にどう組み込んでいくのかを確認すべきと思う。</p> <p>・個の学びを広げることが大事になるが、個の意見が少数の意見を消さないような環境を大事にして欲しい。</p>																																																																																																																																

基本目標		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化	
重点施策		
4	児童・生徒が教育パートナーとして支え合い、「おおだて型授業(響学)」の質を更に高める	担当課(館)
	② 「おおだて型授業(響学)」の実効性を高めるツールとしてICTを効果的に活用	学校教育課 教育研究所
	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校のICT推進委員を核として、全小・中学校に整備されたタブレット端末、電子黒板、学習支援ソフト、デジタル教科書等の活用を支援する。 ・校務支援システムの書庫に、国語科・算数科・数学科において、ICTの効果的な活用場面を位置付けた年間指導計画や各校のICTの効果的な活用実践事例を入庫する。教職員がいつでも閲覧し、効果的に活用できるようにデータを蓄積していく。 ・学校の壁を越えた学習スタイルを推進し、オンラインを活用し、複式学級のある学校同士が日常的に繋がる等、授業の中で多様な見方や考え方に触れ合えるようにする。 	
	<p>点検評価</p> <p> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p>市内25校でのICT活用支援のため、市教委にICT支援員を1名配置し、各校の要望に合わせ、実際に出向いて支援にあたっている。また、各校ではICT活用推進委員が中心となり、授業におけるICTの効果的な活用が進められている。年に2回行われるICT活用推進委員会では、ICTの活用に関わる成果点と課題点を協議し、改善点を次年度につなげている。秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙の結果においても、数値の上昇が見られる。</p> <p>秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙(小4~中2の平均)においても、ICTに関わる項目において、全て県平均を上回っている。(県を100とした市の指数)</p> <p>1 普段の授業では、コンピュータなどのICT機器をどのくらい使用していますか …(103.3)※R5 97.1</p> <p>2 あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり調べたりするために、どのくらい使用していますか …(102.9)※R5 95.8</p>	
	<p>課題等</p> <p>各校のICT推進委員を核として、全小・中学校に整備されたタブレット端末、電子黒板、学習支援ソフト、デジタル教科書等の活用に躊躇している学校を、重点的に支援する。</p> <p>運用ポータルサイト(校務PC内)に、国語科・算数科・数学科において、ICTの効果的な活用場面を位置付けた年間指導計画や、各校のICTの効果的な活用実践事例を入庫し、教職員がいつでも閲覧できるように蓄積していく。</p> <p>また、学校の壁を越えた学習スタイルを推進し、オンラインを活用し、複式学級のある学校同士が日常的に繋がる等、授業の中で多様な見方や考え方に触れ合えるようにする。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
	<p>学識経験者等意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器の使い方も大分慣れてきていることと思う。 ・ICTを効果的に使うためには、利用のタイミング、活用の仕方(どこで使うのか)を考えることが大事。このことが資料作りを工夫することの指導につながる。 ・これからの子どもたちはICTがないと生きていけない時代である。 ・子どもの成長に合わせた使い方をして、未来の大館市民となるような子どもたちを育ててほしい。 	

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
5	学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する
	担当課(館)
	② 学校と行政の連携により個性や特性が発揮できる教育環境や教職員の職場環境の整備
	学校教育課 教育研究所
活動内容	<p>・令和2年度に国のGIGAスクール構想により導入した1人1台タブレット端末の更新・整備を着実に実施するため、県及び関係者と連携を図りながら進める。また、校内通信ネットワーク環境の高速化と安定性を確保するため、全校でネットワークの改修を実施し、合わせて児童生徒が安全・安心してインターネットを利用できるよう、Webフィルタリング機能も導入する。さらに、ネットワーク改修後、校内ネットワークの高速化及び安定性が図られているかどうか検証するため、ネットワークアセスメント(ネットワーク環境の診断)を実施する。</p> <p>・令和元年度に導入した校務支援システムは、令和7年度中に県が進める統合型校務支援システムに切り換え、引き続き、学校における様々な事務処理(校務)の効率化を図り、教職員の負担軽減や超過勤務時間の削減など、働き方改革等につなげたい。</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>国のGIGAスクール構想により令和2年度に整備した児童生徒1人1台端末を、国の補助金を活用して12月から5年間のリース契約により更新をした。また、児童生徒が安全・安心してインターネットを利用できるよう、Webフィルタリング機能も導入した。さらに、前回整備できなかった教員用端末も新規に整備した。</p> <p>・児童生徒用端末台数 3,970台</p> <p>・指導者用端末台数 353台</p> <p>校務支援システムの更新については、秋田県で進めている統合型校務支援システムの共同利用切り換えを行った。引き続き、学校における様々な事務処理(校務)の効率化を図り、教職員の負担軽減や超過勤務時間の削減など、働き方改革等につなげたい。</p>
課題等	<p>・小中学校の授業で使用している電子黒板は、現在92台、主に令和5年度に整備した90台が授業で使用している。各校の使用状況を見ると、年々使用率、使用回数も増えていて、現場の先生方から電子黒板を授業でもっと活用したい、授業で使う教材の作成が容易で、負担の軽減につながっているとの声もあり、今後、追加の整備を検討する必要がある。</p> <p>・次世代校務DX環境整備の入り口として、校務系と学習系ネットワークを統合したが、今後は、校務用端末と指導者用タブレットを統合し、教職員も1人1台環境にする方向に進めることの検討が必要である。</p>
	<p>取組の方向性</p> <p><input type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 単年度</p>
学識経験者等意見	<p>・現場の先生方に有効に活用して欲しいと思うし、子どもたちも使いこなすことがこれからの流れと思う。頑張ってもらいたい。</p> <p>・市で子どもたちのために、多大な費用をかけてデジタル機器を整備してくれていることはありがたい。引き続き、感謝を忘れず、無駄のない使い方をお願いしたい。</p>